

令和7年度 第4回 学校運営協議会（議事録）

1. 開催概要

I 日時：令和8年3月9日（月） 午前10時00分～12時00分

II 場所：静岡県立浜松湖東高等学校 応接室

III 出席者（委員、敬称略）

小泉正嗣（元公立高校長・山梨学院大学嘱託員・常葉大学講師、会長）

高木邦子（静岡文化芸術大学教授、副会長）

神間智博（本校同窓生）

鈴木恵子（認定 NPO 法人魅惑的倶楽部理事長）

白柳健司（本校後援会長）

竹本澄生（神久呂協働センター所長）

本校職員

渥美真人（校長）、猿田かおる（副校長）、萩原英城（教頭）、藤田優子（事務長）

IV 議事内容

(1) 令和8年度学校経営計画について

- ・経営方針の継続と深化：令和8年度のテーマを「オモロイ学校 ～続ける・極める～」とし、過去2年間の「やってみる」「見える改革」を基盤に、改革を止めず質を高める段階へと移行する。
- ・「面倒見のいい学校」の具現化：生徒一人ひとりに寄り添う体制を強化。1分間カウンセリングの全生徒実施や、特別支援教育コーディネーターの独立化によるチーム対応を継続する。
- ・教職員の働き方改革とICT活用：「プライベート第一」を掲げ、20時完全退庁を徹底。自動採点ソフトや統合ソフト「C-ラーニング」の導入により業務効率化を図る。
- ・外部環境の厳しさとそれへの対応：私立高校の無償化拡大による公立高校の定員割れへの危機感、時代に適応した保護者対応など。
- ・探究学習の地域展開：地元企業との連携（エンジン）や、高校生が中学生を指導する「コトバシヨ」プロジェクトなど、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- ・上記について、異議なく承認された。

(2) 意見交換

- ・教員の働き方改革とコミュニケーションの維持
退庁時間を早める一方で、授業改善のための雑談や議論の時間をいかに確保するかが議論された。自動採点ソフトの導入により、定期テスト等の採点時間が大幅に短縮された実績が報告された。管理職自らが早く帰ることで、職員全体が帰りやすい空気をつくる重要性が共有された。
- ・保護者対応の現状と課題
- ・生徒募集と私立高校無償化の影響
- ・生成AIへの対応
教育現場での生成AIの受容の仕方等について議論された。

V 今後の日程

令和8年度第1回学校運営協議会：令和8年6月6日（土）10:00～12:00を予定。